

おひとりさまの尊厳が 守られる終活支援を

高山市議会公明党
山腰 恵一



問 身寄りのないひとり暮らしの高齢者が死亡した際、引き取り手がなく市が火葬した数は。また、生前から意向を残す終活が重要であり、終活支援センターの設置や葬儀・火葬・納骨等をサポートする「エンディングプラン・サポート事業」を検討してはどうか。

答 墓地埋葬法により市が葬儀を行うこととなっており、近年では、令和2年度14件、令和3年度8件、令和4年度12件、今年度15件である。終活支援では、成年後見支援センターが対応している。また、「エンディングプラン・サポート事業」の実施については検討が必要と考える。



公共施設等総合管理 計画の検証・見直しを

高山市議会公明党
中 箴 博之



問 現状、十分に活用されていない公共施設もある中で、民間の視点を取り入れ、行政の縦割りを越えた利用促進やDX化による効率化など、「市民の幸福に資する公共施設」という観点で、策定後5年を迎える公共施設等総合管理計画の検証・見直しが必要ではないか。

答 公共施設等総合管理計画は2050年までを計画期間としているが、社会情勢や価値観の変化に柔軟に対応する施設のあり方や使いやすさ等を検証した上で、令和7年度からの新たな実施計画を定めるのに合わせて、基本方針についても令和6年度に見直すこととしている。



ふるさと納税額の 落ち込みの責任は

創政・改革クラブ
岩垣 和彦



問 ふるさと納税仲介事業者を市が変更したことにより、ふるさと納税の寄附額が大幅に落ち込む見込みとなっている。議会は事業者の変更の際に「市内における資金循環および人材育成の重要性を踏まえた政策運営を求める決議」を市長に提出している。これは、地域経済はもとより若者等の人材育成が阻害される可能性を鑑み決議したものであるが、これに対する市長の見解は？。

答 ふるさと納税の状況は遺憾に思うが、決議を重く受け止め、市内の資金循環と若者や女性を中心とした人材育成を意識し、市長としてしっかり旗を振りながら市政運営に努める。

「飛騨民俗村再整備構想」 と「旅行村線」

創政・改革クラブ
倉田 博之



問 市道旅行村線は飛騨民俗村の再整備において重要だが、2度の路線変更を経て別方向の宗教法人前で国道158号に接道された。当該路線は外環状道路の位置づけで、かつ国道158号の混雑緩和が当初目的のはずだが、混雑エリアの手前で国道につながり、しかも民俗村への路線改善がない現状は何一つ目的を達成できないのではないか。

答 暫定ルートであり、原山市民公園東側の行き止まりから工事を再開した。民俗村につながる道路狭隘部分は改善に努める。



【市道旅行村線計画変更概略図】